

## は し が き

この研究報告は、当教育センター科学教育部所員、理科長期研修員、地区理科教育センター専任所員、研究協力員の研究成果をまとめたものです。

小・中・高校の新学習指導要領が出そろい、中学校では56年度から新学習指導要領で授業がスタートすることになりました。今回の改訂で科学概念形成のために探究過程を尊重するのは今迄と変わりませんが、それを重視する理科教育より子供たち自身が身近かな自然に働きかける理科教育を大切にしなければならぬと述べられています。これは、前回の改訂より理論的でなく、かつ派手さはありませんが、子供たちが自然に親しみ、自然を愛護し、自然と人間とのかかわり合いを考えることを重視したものです。これらのことを重視することで、自然の事象を解明するために大切な自然科学の基礎的・基本的概念の形成が行われやすくなると言われています。そのためには、身近かな素材を明らかにし、その教材化を検討することが重要な課題の一つです。

また、時間数の削減、少なくなった教材という条件の中で基礎や基本を大切にし、いかにゆきとどいた指導をするかを考えるとき、教師の独創性の発揮が期待される重要な時期でもあります。

そこで、当教育センターでは数年前から、これらの情勢をふまえ指導上の問題点や身近かな素材の検討を進めてまいりました。今年度も以上の点にとくに留意して、理科教育の現代化に対応した指導上の問題点や素材の検討を行いそれらの結果をまとめてみました。しかし、これらの報告の中には引き続き研究を要する内容のものもあり、また、研究の進め方や結論の導き方に不十分なものもあるかと思うので、お気づきの点がありましたら、卒直な御指導と御批判をいただけたら幸いです。

最後に、これらの研究にあたり、御助言をいただいたり便宜を与えてくださいました各位に対し、厚くお礼申し上げます。

昭和56年3月

新潟県立教育センター所長 風 巻 友 重